

With

2005

春

vol.32

ウィズセンター情報誌

- パートナーシップ促進講座 汐見和恵さん・汐見稔幸さん
- 内野副知事インタビュー
- メディアからの発信 桑原浩子さん

パートナーシップ 促進講座

夫婦！ー私たちの場合ー

～素敵な夫婦関係を探って～

講師 汐見 和恵 さん

東京都生まれ。日本女子大学人間社会学部社会福祉学科卒業。立教大学大学院社会学研究科博士課程修了。現在、立教大学社会福祉研究所研究員。保育士、学習塾の経営を経て42歳のときに、自分のライフワークとなる仕事をしようと再び大学・大学院に進む。夫婦が子育てを通して家族をどのようにつくっていくのかを様々な角度から研究している。

講師 汐見 稔幸 さん

大阪府生まれ。東京大学教育学部卒、同大学院博士課程修了。現在、東京大学大学院教育学研究科教授。専門は教育学、教育人間学の応用部門としての育児や保育を研究。育児の実際にかかわってきて、その体験から父親の育児参加も呼びかけている。また、現代の女性、男性の生き方とその関係のあり方、家族問題などについても研究している。

二人の出発点は子育て

稔幸：私達のパートナーシップの出発点は子育てだと思っています。まだ日本では子育てをする父親は少ないようで珍しがられます。僕は親として当たり前のことをしてきただけだが、結果として、何がよかったのか、どこで苦労したのか、妻和恵からみてどういうふうな評価になるのか率直に聞きたい。

和恵：結婚した時、私は保育士で、彼は大学院生。すぐに長女が生まれ、産休明けから仕事をしたが、核家族で親の援助は頼めないし、保育園にも預けられなかったので、保育ママに預けました。二人とも夜が遅いこともあったので、綱渡りでしたね。彼の世代は口では男女平等と言っても行動が伴わない人が多いので懐疑的に見ていましたが、彼はよくやったと思っています。もともと、まめで料理も得意ということもあったからかも。それと、彼の方が子どもと遊ぶのが好きでしたね。

対等平等な協力関係を目指す

稔幸：やらざるを得なかったこともあるが、実は高校時代の強烈な体験がベースにあるんですね。僕は成績や家の経済状態が少し良かったのでたまたま進学できたんだけど、一緒に遊んでいた友人の多くは中卒で就職しました。その友達に毎朝電車で会うのが本当に辛くて、人間は本当に平等なのか、何かもっとやるべきことはないのかと学業そっちのけで悩み続けました。そんな頃、ジョン・ス

チュワートミル（英）の「女性の解放」という本に出会ったのです。「世の中には優れた数学者や画家、政治家に女性はいない。でも、女の子に立派な数学者や政治家になれと期待して育てた人はいたか。男と女は平等に扱われていない。期待しなかっただけ。」目からウロコが落ちた思いでした。そのときから男だから女だからと決めないで、できるだけ対等で平等に持っている能力を伸ばす。少なくとも自分の家族、身近な世界ではできるだけ対等平等な協力関係をつくりたいとずっと思ってきました。

子どもの発達を研究していたこともあり、子育てをするのが当たり前と思っていた。僕の場合、特殊な例かもしれないが、必要に応じてやってきただけではない。それといいパートナーに出会えたからですね。

和恵：実際にそう思っているでも現実の生活の中で実践するのは難しいですね。二人で決めたことだけど、研究者として一番大切な時期に子育てのために時間を取られて悪いなあという思いはありました。そしてそう思う自分が辛かった。

稔幸：本音のところ40代前半まではずっと悩んでいました。その時期、主力を家事・育児に注いでいたんですね。「この子達が大人になったとき自然と人間の共生ということが大きな社会のテーマになる。自然の営みを知らずに自然は語れない。子どもはできるだけ自然の中で育てたい。」ということで土日はいつも子ども達を自然の中に連れ出していました。その間、研究論文は全く何も書けないし、本もなかなか集中して読めない。周りから「あいつは何も書かない」という話が聞こえてきたりで、心の中で葛藤していました。でも、子どもの発達を研究していたこともあり、子育ては今しかできないと育児を選択して葛藤することをやめました。それに、彼女に口先だけだと責められたくなかったですね。



☒

和恵：苦しんでいることは分かっていたから、私も苦しかった。これでいいのかと幾度も聞きました。

☒

稔幸：結婚してすぐけんかをしたことがあるんです。彼女はすべてをフィフティフィフティにと要求した。それは、僕が思っているのとは違う。それぞれ得意不得意があるのだから、できることをお互いにやって、気持ちとして一緒にやるのが平等ではないのか。どちらもやりたくないことがあったら話し合う。話し合えるかどうかだと言うと言ったんです。それが男女共同参画の分野ですね。

☒

和恵：彼は、「出産、母乳以外はすべてフィフティフィフティで家事・育児をやる夫」と世間では言われているようですが、現実には仕事のこともあり、そうばかりと言えなかったと思います。大事なのは、相手を信頼して共存してきたということです。その時々、何が不満かそういうことを話してきました。今でも一緒にお風呂に入りますが、子どもの話はお風呂でしましたね。

☒

育児は育自

和恵：長女が小学校に入った頃から原因が分からないまま、長女の言動すべてのことにイライラして、母親としてずいぶん辛かった時期がありました。彼女に対する見方が変わったのは、彼女が6年生のとき、掲示版へ張り出されている自主研修の作品を見てからです。すごく面白くて、自分にはない、いいところがあると初めて気づいたのです。後で、彼と色々話をしていく中で分かったのですが、原因は私の子どもの頃の体験にあったのです。両親が離婚して小学校の2年の時新しい母親がきた。緊張感の中でいつもいい子でいようと無理をして頑張った。それが自分の中で解決できていなかったのです。だから娘を見て心の中で自分はそんなじゃなかったと、イライラする思いをぶつけていたのだと分かったのです。



☒

稔幸：何でだろうといつも思っていました。娘はマイペースだが時々おもしろいことをする。それがいちいち気に障ったのは、無意識のうちに子どもの頃の体験と相入れないものがあったのだろうと後から分かった。育児は育自だと言われるのは、もう一度人生を振り返ることができて、生き直すことができる経験ができるからだと思います。

大学へ行きたい

稔幸：今日初めて聞くんだけど、君はあこがれていた看護師への道が断たれ、ずっと目標を持ってないまま仕事をしながら3人の子育てをしてきた。そして40歳を超えて大学へ行って、また勉強したいと言ったね。自分の人生をやり直すことに不安はなかったのかな？

☒

和恵：看護教育をやりたくて東大の看護学校へ入ったものの、身体をこわして辞めざるを得なかった。その挫折



感から抜け出せず、何をやっても自分がやりたいことはこれではないという思いがずっと続いていました。30歳ぐらいの時に「もう一度学校へ行きたい」と彼に言いました。そうしたら「何のために行くのか」と聞かれて答えられなかったのです。それからもずっとそのことを考えていました。自分の育った環境からか、潜在的に人に対する信頼感が少ないんじゃないかという思いや、塾での親と子の関りの中で、子どもの問題は家族のことが大きい。夫婦や家族の問題はとってもしっかり問題ではないかと思い始めたのです。やっとテーマが見つかりました。

大学へ行こうと思ったのは、人生86年のあと半分はある。10年勉強しても20年は社会で役に立つのではないかと思ったからです。不安は全くなくて、大学は楽しく、学ぶことも多かったです。心理学の平木典子先生が、「自分の人生をイメージすることで夢は半分成就する。それはイメージする自分の人生に知らず知らず指向していくからだ。」と言われて気力はいっぱいだったし、モデルになる女性の研究者はいっぱいいました。

☒

稔幸：家族は共同作品、子どももお母さんが頑張っているといい影響がある。僕も…。

☒

和恵：それに、年取ると単純に記憶するだけというのは若い人に比べると劣るけれども、経験や知識が新しいことを勉強するのにプラスになります。同じ目標に向かっていくのに年齢は関係ないと思いましたね。

家族に支えられてここまでできました。うちの家族は誰が何をして絶対ダメと言わない。エールを送ってくれるので、それも大きな励みになりました。

☒

素敵な夫婦関係

稔幸：今忙しすぎて、すき間を縫って話しているという状態。お互いの研究テーマが重なるので一緒に会議も多く、とにかくしゃべることがいっぱいあります。旅行に行くのは夫婦でいくより友達同士のほうがいいのかという人もいますが、僕たちはそういうことは考えられない。二人で行く方がずっと楽しい。若い時逃げないで一緒にやってきたことがベースになっていると思います。

☒

和恵：結構けんかもしてきました。けんかしてもいい。後からそれを言葉にして必ず決着をつける。お互いにそれが大事ですね。

☒

稔幸：結果の収め方が上手くなったのかな。(笑)

内野淳子副知事 インタビュー



昨年7月に就任された内野副知事に男女共同参画行政の今後の取り組みや抱負などについてお話を伺いました。柔らかな冬の日差しが射し込む副知事室で、終始にこやかにお答えくださいました。

Q 再度、岡山県へ来られて、以前と変わったところや改めて感じられたことはありますか？

(H3.4～H5.3 国際交流課長として勤務)

A まず、交通面が非常に便利になったと感じています。それに10余年の間の変化だけでなく、今まで知らなかった歴史や文化など新しい発見もあり、岡山の奥深さを感じています。吉備文化が栄えたのも、人と自然がうまく共生していたからではないでしょうか。

☒

Q この半年間、県行政に関わられての感想はいかがですか？

A 地方分権、三位一体改革の動きが本格化しようとする時期に地方行政に関わることができることを有難く思っています。霞ヶ関の縦割り行政に、ある意味で閉塞感を感じていましたので、地方から霞ヶ関をみると変革のエネルギーは地方の方が強いと感じます。

Q 少子高齢時代を乗り切るには、男女共同参画社会の実現が必要だといわれていますか？

A 少子高齢社会の中でこそ、性別にとらわれず、個人の持つ個性や能力を活かせる社会を作っていくことが重要だと思います。老若男女共同参画社会を実現することは大事ですね。

Q 男女共同参画社会実現のためには、どのようなことが必要でしょうか。

A 行政としては、家庭・地域・職場の問題にどこまで関わっていきけるか、という難しさを感じています。

家庭の問題は家庭の中で、まず、しっかり議論することが必要ですし、働く場では法律・制度も整ってきたの

で、仕事と家庭の両立支援とか、女性の管理職の登用などといったことは、その職場でどう取り組むかということが重要でしょうね。地域も具体的な取り組みが重要なのは同じですね。ただ、地域の色んなレベルで、何かを動かすシステムの中に女性があまり入っていない。まず、地域の中で女性が存在感を示していくことが必要だと思います。

地域のニーズをどうとらえていくかというとき、男女共同参画の実を入れないと地方分権にも魂が入らないと思います。

Q 男女共同参画推進に取り組んでいる人たちに期待することは？

A 自分たちの活動をうまくPRして、周りの人たちに共感してもらえるような形で広がっていくといいですね。

Q 仕事に対する信条を教えてください。

A 志は高く、視野は広く、今、大切にしなければならないことを見失わないように。そして楽しみながらということでしょうか。

Q 7年目を迎えるウィズセンターのこれからの役割と期待をお聞かせください。

A 人が集まりやすいという利便性を活かしてセンターを訪れた人たちからも情報を得て、県内に発信してもらいたいですね。出前講座なども積極的にやってほしい。参加した人たちが「元気をもらった!」という気になる催しをしてほしいですね。それが、チャレンジ支援にもつながるのでないでしょうか。

「老後のことも視野に入れながら、これからは生活を楽しむことも身に付けなければ…」と言われる内野副知事。スーパーで買い物をしながら、地産地消に思いをはせることも…。

☒最後に、岡山国体の競技力強化本部長として、「天皇杯、皇后杯の獲得を目指している。選手が十二分に力を発揮できるように、県民の皆さんにはしっかりと応援をお願いしたい」と力を込めて話されました。

(聞き手：情報コーナー 小林鈴代)



ウイズカレッジ

「リレートーク 時代を拓いた岡山の女性たち」

講師 岡山女性史研究会の皆さん

- 第1話 12/12 民権運動に参加した女性たち
●福田英子、炭谷小梅
- 第2話 12/26 女子教育の道を拓いた女性たち
●女紅場の女性たち、福西志計子
- 第3話 1/9 社会に奉仕した女性たち
●高橋富枝、アリス・P・アダムス
- 第4話 1/23 専門職に就いて働いた女性たち
●日赤の従軍看護婦たち、岡政
- 第5話 2/6 変革をめざした女性たち
●山上喜美恵、荏田アサノ
- 第6話 2/13 芸術・文化・スポーツで活躍した女性たち
●人見絹枝、永瀬清子

それぞれの分野で強い意志を持って活躍した岡山の女性たち、歴史の中に埋もれかけた女性たちを、ミステリーの謎解きのように様々な文章から探し出して作られた資料をもとに学びました。

ウイズカレッジ

男女共同参画メディア談義 送り手から受け手へ

(3月6日開催)

基調講演 「マスメディアは女性をどう伝えてきたか」

講師 畑 律江 さん (毎日新聞社学芸部副部長)

パネルディスカッション

「送り手から受け手へ～メディアの役割～」

コーディネーター

池田 武彦 さん ((株)おかやま財界代表取締役社長)

パネリスト

畑 律江 さん (毎日新聞社学芸部副部長)

高谷 智泰 さん (NHK岡山放送局アナウンサー)

小川 真知子 さん (コマーシャルの中の男女の役割を問直す会世話人)

数少ない女性の新聞記者としての立場から、女性の視点でニュースを伝える必要性やメディアの作り手に女性が管理職として参画することの重要性について話されました。

平成16年度

男女共同参画

地域フォーラム

ウイズセンターでは、地域の皆さんが男女共同参画社会を実現するためのお手伝いとして、市町村と協力しながら県内各地でフォーラムを開催しています。それぞれの地域の大事の方が参加してくださいました。

- 有漢町 8/8 講演と落語……林家花丸(噺家)
- 大佐町 8/29 人形劇と講演……ちょう・かえる一座/加野芳正(香川大学教育学部長)
- 総社市 9/18 意見発表と講演……岡山県立大学生/松居一代(女優・エッセイスト)
- 邑久町 9/25 漫才、講演と落語……さっちゃん・ともちゃん/桂文喬(噺家)
- 哲多町 11/23 漫才と講演……さっちゃん・ともちゃん/小松泰信(岡山大学農学部教授)
- 山手村 11/28 漫才と講演……さっちゃん・ともちゃん/加野芳正(香川大学教育学部長)
- 勝北町 12/4 ワークショップと講演……プリティーウーマン/内野淳子(岡山県副知事)
- 御津町 2/26 講演と落語……霧の都(噺家)
- 里庄町 3/13 講演と落語……桂文喬(噺家・教育評論家)

☒ ☒ ☒

メディアからの発信 vol.4

「夫婦関係から見る男女共同参画社会」

山陽新聞社広告局広告部 桑原 浩子さん



私が新聞社に入社した1988年は、瀬戸大橋が開通するなど大型プロジェクトが次々完成し、世の中はバブルにわいていた。それから数年間は紙面に、女性せり人誕生、初の女性運転士など、社会に女性が進出したことが大きな話題となり、紙面を彩っていた。

今年は男女雇用機会均等法施行20年。今ではさまざまな分野で女性が活躍し、内閣府が発表した2004年度の「男女共同参画社会に関する世論調査」で、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ」という考え方に「反対」が「賛成」を調査開始以来、初めて上回ったことから、女性の社会進出は当然のこととして受け入れられてきたことが分かる。

しかし、管理職の女性は少なく、まだ労働環境は男性中心といわざるを得ない。もっと、男女共同参画社会を進めるためにはどうしたらよいのだろうか。

2月まで生活情報紙の編集に携わり、紙面では子育てや趣味、女の転機などさまざまなテーマを紹介してきたが、その中で「上手に夫婦げんかしてますか」という特集を組んだことがある。夫婦げんかの回数や対処法などを読者に聞いて、夫婦がいい関係にいるためのコツを探ってみたのだが、その結果、「けんか上手」になるコツは、言いたいことを言い、相手のことを聞く「対話上手」になることだった。

最も身近な男女の集合体である夫婦がいい関係であり続けるためのコツを参考にすれば、男女共同参画社会には、「対話上手」になることが必要なのではないだろうか。

かく言う私は結婚12年目。かなり分かり合える仲になったつもりだが、お互いに「どうして△△してくれないのー」「その言い方はなんだ」とまだまだけんかの域を超えていない。早く対話ができる関係になりたいものだ。

INFORMATION

参加者募集

ウィズカレッジ

男女で学ぶ介護講座

- 内 容** 第1部講演
高齢社会と私たちの暮らし
～いきいきとした暮らしづくりに向けて～
第2部 在宅介護実技指導
「自立への援助のために」
- 日 時** 4月30日(土) 13:00～16:15
- 会 場** ウィズセンター
- 講 師** 小坂田 稔(美作大学教授)
江里美代子(赤十字家庭看護法指導員)
- 募集人数** 70名
- 申込期限** 4月27日(水)まで

DV根絶フォーラム

- 内 容** 講演と対談
「DVと虐待 ～家族の中の暴力を考える～」
- 日 時** 5月14日(土)
- 会 場** ウィズセンター
- 講 師** 信田 さよ子
(原宿カウンセリングセンター所長)
- 募集人数** 100名
- 申込期限** 5月7日(土)まで

※受講料はいずれも無料です。

※受講を希望される方は、電話、FAX、ハガキ、Eメール(danjo@pref.okayama.lg.jp)で①住所②氏名③電話番号④講座名をウィズセンターまでお知らせください。

平成17年度キャリアアップ講座(女性のチャレンジ支援事業)

- 内 容** キル編(パソコン検定3級程度の技術)
アビリティ編(応募書類の書き方、面接対策、労働契約・社会保険・税金等就業に必要な知識)
- 応募資格** 結婚・出産・育児・介護等でいったん仕事を中断し、再就職を希望している女性で、全期間受講できる方
- 受講料** 無料
- 受講期間** 23日間
- 定 員** 岡山・倉敷地区:28名 津山地区:26名(選考により決定)

No	受講期間	申込受付期間	会 場
1	5月6日(金)～5月15日(水)	4月19日(火)～4月22日(金)	ウィズセンター、西日本電子計算学院
2	6月2日(木)～7月9日(土)	5月18日(水)～5月21日(土)	津山男女共同参画センター
3	6月28日(火)～8月4日(木)	6月14日(火)～6月17日(金)	ウィズセンター、TAC岡山校
4	9月13日(火)～10月21日(金)	8月30日(火)～9月2日(金)	倉敷市倉敷労働会館
5	9月22日(木)～11月2日(水)	9月6日(火)～9月9日(金)	ウィズセンター、TAC岡山校
6	11月11日(金)～12月22日(木)	10月11日(火)～10月14日(金)	ウィズセンター、西日本電子計算学院
7	1月10日(火)～2月16日(木)	12月6日(火)～2月9日(金)	倉敷市倉敷労働会館
8	1月17日(火)～2月23日(木)	12月13日(火)～2月16日(金)	ウィズセンター、専門学校ビーマックス

※「働く前に知っておきたいワークライフセミナー」としてアビリティ編の講義の一部を公開講座とします。
※申し込み方法等詳しいことはウィズセンターへおたずねください。

問い合わせ先 就業相談窓口：TEL086-235-3309

ウィズセンター情報誌表紙

結果発表



男女共同参画シャッターチャンス

入選作品が決まりました。応募点数80点の中から選ばれた優秀賞4点については平成17年度の表紙を飾ります。



「広がる女性の職場」
丹治千東さん(岡山市)



「コーイチせんせー!がんばったヨ」
西村幸一さん(岡山市)



「二人はベストハーモニー」
北村好孝さん(山手村)

祝
優秀賞



「港の祭り」
岡城正義さん(岡山市)



「ハス畑の夫婦」
花一彦さん(岡山市)



「仲よし夫婦」
浅野ミドリさん(船穂町)

祝
入賞



「お父さんとお話中」
駒木須美子さん
(久世町)



「畑仕事」
丹治道朗さん(岡山市)



「妻も夫も家具職人」
元井哲治さん(湯原町)

男女共同参画まんが

育児休業



子育ては、母親だけでなく父親も積極的にかかわり社会がそれを支えていくという認識を持つことが大切です。

ウィズライブラリー

図書



『ジェンダーの世界地図』
●藤枝千枝(編)
●菅原由美子+鈴木有子(著)
●大月書店(2004年)

「くらべてわかる世界地図」シリーズ第3巻。女の子の方がたくさん死ぬ国がある。人口、賃金、読み書き、犯罪...世界の国々における様々な男女差や男女の状況をカラフルな図やグラフでわかりやすく解説しています。

DVD



『夫を粗大ゴミにしない金の法則』
●東海林のり子(著)
●幻冬舎(2003年)

結婚して何十年もたった、夫が定年退職した、そんな熟年夫婦がより良い夫婦のパートナーシップを築くために、誰でも、いつでも、すぐに始められるとっておきの方法43項目。

『ぷりていウーマン』
●(2003年) ●111分
市民サークルの出し物として芝居をするようになった「ともしび会」の熟年女性7人。練習に取り組む中でつぎつぎと起きる悲喜もごものストーリー。実在する劇団をモデルにした、熟女パワー炸裂のスーパーフィクションです。

ウィズセンター情報ライブラリーの本を読んでのご感想をお寄せください。

平成17年4月1日、改正育児・介護休業法施行!

育児・介護休業法の主な改正点は、

- 1 育児・介護休業の対象労働者の拡大
- 2 育児休業期間の延長
- 3 介護休業の取得回数制限の緩和
- 4 子の看護休暇の創設

です。改正育児・介護休業法に沿った雇用管理がなされるよう、就業規則の見直しを行いましょう。



問合せ先
厚生労働省岡山労働局雇用均等室
(電話086-224-7639)

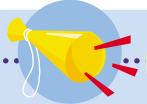


ウィズセンターは土・日曜日も開館しています。☒
お気軽に、お越しください。☒

ウィズセンターはこんなところ ☒

男女共同参画社会とは、☒
男女の権利が等しく尊重され、☒
お互いが支えあい、利益も責任も分かちあえる、☒
いわば、女性と男性の☒
イコール・パートナーシップで築き上げる☒
バランスのとれた本当に豊かな社会です。☒
ウィズセンターはこうした男女共同参画社会づくりを☒
推進していくための施設です。☒

- 1 ほしい情報が手に入ります。☒
 - 関係機関の情報誌の閲覧や、男女共同参画に関する図書・ビデオなどの貸出のほか、人材情報も提供しています。☒
 - 就業に役立つ情報を提供しています。☒
- 2 相談ができます。☒
 - 女性の相談員が様々な悩み事の相談に応じます。☒
 - 就業に関する様々な相談に応じます。☒
- 3 学習できます。☒
 - 男女共同参画のための各種講座を行っています。☒
 - 再就職に役立つキャリアアップ講座を行っています。☒
- 4 便利な施設が利用できます。☒
 - 男女共同参画に関する県民のみなさんの活動を支援しています。☒
 - 男女共同参画に関する活動の活性化と交流を深めるために、会議室、交流サロン、作業室などを提供しています。☒



お知らせ

岡山県のホームページでは「晴れの国ジャーナル」動画配信をしています。ウィズセンターの紹介を見ただけができるようになりました。センターについて分かりやすく紹介していますので、是非ご覧ください。☒

センターへのご意見はご遠慮なく☒
ハガキ・FAX・Eメールまたはセンターの提案箱へ☒

ウィズセンター利用のご案内 ☒

開館時間 ☒ …… 火～土曜日 ☒ 9:30～20:00 ☒
日・祝日 ☒ 9:30～17:00

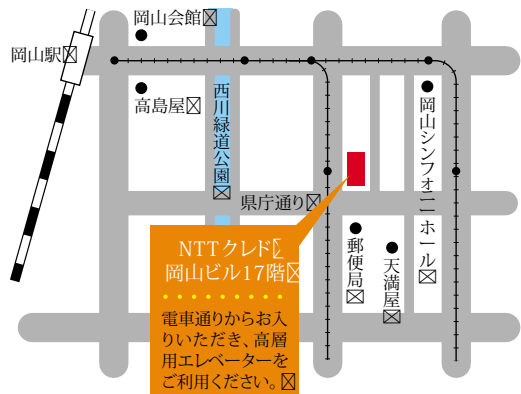
相談員による ☒ …… 火～土曜日(祝日を除く) ☒ 9:30～17:00 ☒
一般相談 ☒ (受付は16:30まで) ☒
就業相談 ☒

特別相談 ☒ …… 弁護士による法律相談 ☒ ● 原則第2・4金曜日 ☒
(予約制) ☒
医師によるこころの相談 ☒ 原則第1・3金曜日 ☒
医師によるからだの相談 ☒ 原則第1土曜日 ☒

休館日 ☒ …… 月曜日及び年末年始 ☒

☒ 電話 ☒ …… 086-235-3307 (代表) ☒
086-235-3310 (一般・特別相談) ☒
086-235-3309 (就業相談) ☒

ホームページ ☒ …… <http://www.pref.okayama.jp/seikatsu/danjo/>



交通案内 ☒ …… 岡山駅から徒歩10分 ☒
バス ● NTT岡山前下車すぐ ☒
天満屋バスターミナルから徒歩2分 ☒
市内電車 ● 郵便局前下車すぐ ☒

ウィズ春号(vol.32) / 平成17年3月発行 ☒
編集・発行 / 岡山県男女共同参画推進センター ☒
〒700-0821 岡山市中山下1-8-45 NTTクレド岡山ビル17F ☒
TEL (086)235-3307(代) FAX (086)235-3306 ☒
Eメール: danjo@pref.okayama.lg.jp



古紙配合率100%再生紙を使用しています ☒